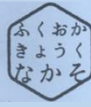


領解

Ryouge



第3号

令和6年2月1日

発行責任者
那珂組門徒推進員連絡協議会
代表 原 京子
事務局 専宗寺
福岡市博多区青木 1-13-20
(092) 611-7541

那珂組連研部長 佐野唯信住職 (専宗寺)

那珂組連研では、今期16期連研よりカリキュラムを見直して開催することとなりました。

これまで、那珂組連研では主に「連研ノート」を利用したカリキュラムで開催されてきました。

もっと参加しやすい連研となればという思いは当時からありましたが、「連研ノート」が改訂された事が転機となり、連研部長を仰せつかったこの度に組連研のカリキュラムの変更を考えました。

「改訂版」の大きな変更点は、今までの「問い」を中心とした話し合い法座とともに、仏教や浄土真宗の基礎知識を学ぶ座学の時間が設けられた事でした。

その頃は、新型コロナの影響で開催を見合わせていた時期でもあったので、より受講しやすい連研のカリキュラムを目指し、僧侶部員と門徒推進員部員と共に、2年を掛けて検討し、

・「門徒推進員」養成という目的に縛られない研修会にする
・「問い」に学ぶ前に、仏教、浄土真宗の教えの基礎を学ぶ
・仏事作法、お経の読み方の時間をより多く設ける

以上を目的としたカリキュラムの作成を目指しました。

変更点は、「連研(れんけん)」の名称の表記を小さくし「初めて学ぶ私と浄土真宗」という名称で受講のご案内をして、途中退会や途中参加を自由としました。また、関心が多い「仏事作法」の時間を増やしました。改訂版にある座学研修の時間を前期4回にまとめることにより、1回の開催時間をこれまでより30分短縮し3時間としました。事前に仏教の知識を学ぶことにより、後期7回の「問い」に学ぶ研修時に、仏教を結びつけやすくなればと思っています。また、受講者間の基礎的な仏教や浄土真宗の知識の差が、受講中に出来るだけ少なくなる様にとの思いもありました。

ただ変えるだけではなく、元々の連研の、「私」を通して浄土真宗、南無阿彌陀仏を学ぶ。また、南無阿彌陀仏を通して「私」を学ぶ、という理念は大切に継承していきたいと思っております。

これからも那珂組としては連研を継続して開催していく中に、少しでも参加される方が多くなるように、参加して良かったと思ってもらえるように、共に如来に願われる「なかま」として喜びを深め合う事が出来ればと願っております。

那珂組門徒推進員連絡協議会 令和5年度 研修会

令和5年6月27日(火)、光行寺において、参加者20名で研修会が開催されました。

『讃仏偈』のお勤め、「浄土真宗の救いのよろこび」、「浄土真宗の生活信条」を拝読。その後、各部会より報告、情報交換。昼食・休憩をはさんで講話がありました。

講師 専宗寺 佐野唯信住職 仏教と連研についての話

釈尊は、生まれてすぐ七歩歩いて、天と地を両手で指さして、「天上天下唯我独尊、三界皆苦吾当安此」と言われた。七歩歩くということは、六道を飛び出すこと。この世は思い通りにならないが、それを受け止めて行く。これが仏教の精神である。仏教は、私の安心につながる教えである。連研では、

仏教について、自ら考える時間を持つことが出来る。



佐野住職

あの日から二十年

(第一五九回 門徒推進員中央教修受講)
安部 一枝 (釋 惠徳)



二〇〇四年三月初旬の寒さのなか、四十八歳の私は京都西本願寺の御影堂門前に立ち、四日後の自身について思いをはせていました。

仏前結婚式(当時は法行寺)から初参式などのご縁とともに二十四年経過し、ちょうど二倍の月日の生活のなか、お仏壇の前でお参りをする好奇心旺盛な三人の子どもたちの素朴な質問は、「お数珠はなぜいるのか?」「なぜ、チーンするのか?」「死んだおばあちゃんはどこに行くのか?」など繰り返し尋ねました。

頼りない母は「これは、真実を伝えなくては」と、連研に通い(当時は夜開催で二年間)中央教修へのご縁をいただきました。

一番若輩の私が代表しての御門主さまからの帰敬式に背後からすすり泣く声が届き、あらためて身が引きしまる思いでした。最終夜、遅くまで話続けた同室のおふたりとは、毎年賀状のやり取りが続いています。

話し合い法座では、難解なテーマに激論となり険悪な雰囲気になったこともありました。まずは、意見を受容し分析していく重要性を実感として学びました。行きつ戻りつの思考のなか、ままならぬ形而上の事象に悩みながらの日暮の齢を重ねています。この度、二十年経過の節目に思い返す機会をいただき大変感謝しております。「一期一会」の気持ちでお念仏申したいと存じます。



第159回門徒推進員中央教修 於 門法会館
2004年3月5日(金)～8日(月)

2023(令和5)年度

福岡教区

第1回門徒推進員全員研修会

2023(令和5)年8月27日(日)
本願寺福岡教堂で研修会が開催されました。
参加者数77名。

『重誓偈』のお勤めの後、福岡教区高原眞見教務所長、福岡教区門徒推進員連絡協議会梅野光次会長の挨拶。

次に、講師の光照寺・郡島朋昭住職から「問題提起」があり、続いて8班に分かれて、昼食・話し合い法座、全体会で各班より発表。最後に「恩徳讃」を唱和して、終了となりました。

郡島住職による問題提起では、主に2023(令和5)年6月30日策定された門徒推進員という生き方【理念】についての説明がありました。

「理念の概要」

門徒推進員の具体的な役割や願いを明示するため門徒推進員という生き方【理念】を作成した。



郡島住職

門徒推進員は「連研」を受講し終えて「中央教修」を修了して、自らの生き方の中心となるみ教えが明らかに、阿弥陀如来のお心を私の「物差し」（価値判断基準）とし、それぞれが自覚と主体性をもって歩み続ける念仏者を言い、教団の運動の推進（基幹運動）にあたる。

門徒推進員は「資格」ではなく「自覚」であるといいながらも何らかの「活動」をしなければならぬという意識が、高齢化等で「活動」できなくなると、門徒推進員を辞める方向に働いている。

門徒推進員として「活動」が伴わなくても、お念仏申させていただくその姿が周りの人々に伝わることも「門徒推進員という生き方」であると、この理念に明示している。

身施（寺院境内清掃）

令和5年5月14日（日）

大壽山 光明寺にて身施を行う。

11名参加

伊藤利生住職の法話を聴聞。

「説教所としての設立から現在の

光明寺を取り巻く



伊藤住職

環境は著しく変化しましたががお念仏の伝承の場として大切にお守りして参ります。」とのお話でした。



令和5年10月3日（火）

白雲山 浄運寺にて身施を行う。

14名参加

白山義章住職の法話を聴聞。

「ダーナ」はサンスクリット語で「布施」を意味します。布施は主に金銭が多いのですが、金銭でない布施があります。それが「無財の七施」で、「身施」はその一つです。布施の心得は「見返りを期待するものではない」ということです。私達には、難しいことかもしれません。



白山住職



みんなの広場

青年布教大会開催される。

令和5年10月5日（木）那珂組 浄運寺

浄土真宗のみ教えを若手僧侶が語る

青年布教大会

福岡組 妙泉寺 木村 慧水 師
那珂組 善昭寺 七里 誓路 師
次世代を担う若手僧侶による布教大会
那珂組 浄運寺 松月 博宣 師
福岡組 妙泉寺 星野 泰良 師

令和5年10月5日（木）
受付13:00 開会13:30~16:00頃
那珂組 浄運寺
春日市下白水南4-35 TEL.092-593-1111
※駐車場に限りがありますので、乗り合わせて、または公共交通機関で臨みましょう。

主催 福岡教区布教団 青年布教団の会
問い合わせ先 福岡教区教務所
TEL.092-771-9081

七里誓路師（福岡組 善昭寺）

親鸞聖人は、臨終来迎を否定され、平生において助かることの教えを説かれた。

木村慧水師（福岡組 妙泉寺）

南無阿弥陀仏の六字は、私たちに智慧とお慈悲を与えて下さっている。南無阿弥陀仏は我に任せよの呼び声である。

星野奏真師（鞍手組 真教寺）

親しい人とも必ず離れるときが来る、しかしその後には会うことが出来る。そこは南無阿弥陀仏のお浄土である。

松月博宣師（志摩組 海徳寺）指導講師

南無阿弥陀仏は、実現不可能なものを実現させる働き、すなわち、私を仏にする「不思議」の働きである。

那珂組二十九ヶ寺お寺巡り

第三回は『教徳寺』です。

「金吟山 教徳寺」

高原隆則住職

所在地 那珂川市西畑58

(092) 952-4490



教徳寺の開基については、記録がありませんが、過去帳に第6世1716年没、第5世は「須川万徳寺にて死す。103歳」と記されていることから、開基は1600年前後ではないかと推測できます。

また、那珂川市井尻区にあるご門徒の箱位牌に納められた一枚に「教徳寺が戸板ヨリ西畑村江引地したのは二代目孫市代之事也」とあり、当家二代目孫市は、1784年5月20日没でありますから、教徳寺は、戸板から西畑に移転しており、その時期は、1750年から1800年の間と推定されます。

当山の喚鐘には「享保12年(1727年)岩戸郷戸板邑 教徳寺 第八世劃印」との銘があります。

当該喚鐘は、第二次大戦中に供出されてい

ましたが、戦後、大分県佐賀関の精錬所から奇跡的に復員しました。

ちなみに、銘記の1727年は、8代將軍吉宗の時代であります。

今年は、第17世神洞師100回忌、本堂建立100周年を迎え、親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年と合わせて、慶讃法要を勤修致します。

過去の法要の写真を見ますと、ご門徒の中に多くのお子さんの姿があります。

近年、西畑は少子化で、伝供をお願いするお子さんを探すのにも苦労します。

しかしながら、山寺ならではの絆は深く、総代はもちろん、婦人会、若婦人会、壮年会の皆様のご協力に、感謝しております。

コロナ禍で滞っていました「おとき」も再開します。

若院夫婦は、今年12月から小学生を対象に寺子屋を始めます。住職も男の料理教室を再開しようかと目論んでいます。



親鸞聖人700回遠忌法要の写真 子どもたちがたくさんいます。



寺宝の喚鐘

令和六年度 行事予定

二月十一日(日) 総会

二月十七日(土) 連研 第五回

三月 九日(土) 連研 第六回

四月二十日(土) 連研 第七回

五月 八日(水) 身施

五月十八日(土) 連研 第八回

六月十五日(土) 連研 第九回

六月二十六日(水) 全員研修会

七月十三日(土) 連研 第十回

九月十四日(土) 連研 第十一回

十月 二日(水) 身施

一月 九日(木) 十六日(木) 本山本願寺御正忌報恩講

一月二十六日(日) 二十八日(火) 福岡教区報恩講法要

編集後記

皆様のお陰により門推だより「領解第3号」を発行することが出来ました。

コロナの影響で中断していました連研も再開されました。誠に喜ばしい限りです。

門徒推進員の高齢化等により活動が厳しくなる中、令和5年6月末に「門徒推進員という生き方【理念】」が作成されました。

この理念を通じて「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」を推進していきたいものです。